

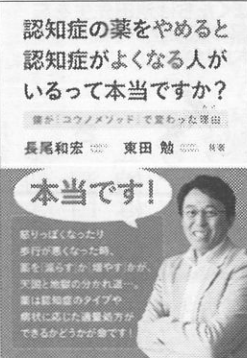
「生き方多様化時代」にヒント

シニア向け 話題の 一冊

シニアの生き方・老い方・死に方に様々な選択肢ができたことで、かえって「どの様な道を選んでいいのかわからない」と迷うことが多くなった。そうした事情を受けてか、最近ではそのヒントになるような様々な書籍が出版されている。ここ数ヶ月の間に刊行された話題の本をいくつか紹介する。

認知症の薬をやめると認知症がよくなる人がいるって本当ですか？

今の認知症医療の問題点とは？



長尾和宏・東田勉著 現代書林 税別1400円

「認知症とみれば『とりあえずアルツハイマーと診断』こんな医師も少なくない」と、医師の認知症に対する知識不足と、それに起因する間違った処方について警鐘を發する。その上で「コウノメソッド」という新たな方法の採用や抗認知症薬の適量処方を訴える。

認知症とともに生きる

理想の介護・支援のあり方探る



山村基毅著 幻冬舎メディアコンサルティング 税別1400円

認知症が国民にとって身近な存在になって久しい。認知症患者やその家族にとって、果たして理想的な治療・介護・支援とはどの様なものなのだろうか？ある病院に密着し、医療・介護・患者・家族がつながり支え合うことで豊かな生活を送る姿を紹介する。

もっと!エンjoyできる透析医療

「つらい透析」は過去のもの



小林直哉著 現代書林 税別1300円

著者は現役の透析医療医師。「透析が必要な状態になったら10年しか生きられない」など、これまでの透析の暗いイメージは過去のもの一刀両断。患者が「安全」「快適」な透析医療を受けるために必要な心構え、透析を受けながら行うリハビリテーションなどを紹介。

看取られる技術

先人の言葉に学ぶ「臨終の極意」

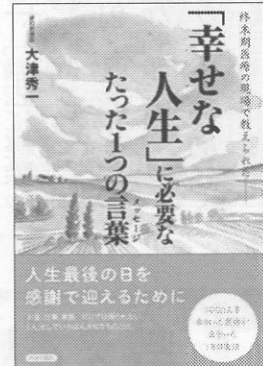


金重哲三著 KADOKAWA 税別1200円

どんな人でも絶対に避けられないのが「死」。その死を迎えるに当たって、人はどの様な心の準備をしなければならないのか？動揺や迷いを生み出す原因とは何なのか？緩和ケアの現役医師が「転ばぬ先の臨終の極意」を会得するために必要なポイントを伝授する。

「幸せな人生」に必要なたった1つの言葉

「終わり」を知れば人は強くなる



大津秀一著 青春出版社 税別1400円

1000人を超える患者の死に立ち会ってきた医師が、最期を「幸せに笑って迎えた人」と「自分是不幸だったと思って迎えた人」は何が違うのか？を18の実例をもとに紹介。人生最後の日を感謝で迎えるためには、今をどう過ごせばいいのか、をアドバイス。